

37 未来の世界

場面：ラジオドラマ (SF)

状況：病院の診療が全てAIになった世界の物語

登場人物：

- A (女性、ナレーター)
- B (男性、AIドクター1)
- C (男性、患者 (ソラ))
- D (女性、患者)
- E (男性、AIドクター2)

A：みなさん、こんにちは。ここは、未来の病院です。この病院では、人間の医者は存在しません。

未来の世界では、すべての病院の仕事をAIの医者、AIドクターがするようになりました。AIドクターはどんな病気もすぐに診断することができ、適切な薬を出してくれます。

でも、AIドクターって、本当に信用できるのでしょうか？

あっ、患者のソラさんがやって来ました。ちょっと会話を聞いてみましょう。

B：ソラさん、これは…命に関わる深刻な病気です。

C：えっ…でも、前に風邪をひいたときと、同じ症状なんです。

B：いいえ、すぐにでも手術をしないと、あなたの命が危ないです。

C：ええっ！

A：ソラは病院のロビーの椅子に座って、呆然としていました。

C：どうしよう…本当に命があぶないのかなあ…もし本当なら、一刻も早く手術をしてもらわなきゃ…でも、風邪なんじゃないかなとも思うし…

A：すると、隣に座っていた女の子の人がソラに話しかけました。

D：私も前にAIドクターに診てもらったの。病気だって言われて薬をもらったけど、ずっと体の調子がよくなって…別の病院で人間のドクターに診察してもらったのよ。そうしたら、AIドクターが言ったのと違う病気だったの。AIドクターの誤診だったのよ。

C：えっ？AIが間違えることがあるんですか？

D：人間も間違えることがあるでしょ？AIも、絶対に間違えないわけじゃないのよ。

A：ソラは病院を出て、となりの町にある病院へ行きました。その病院のAIドクターは、ソラを診察して

E：「これは、風邪ですね。薬を飲んで休めば治ります」

A：と言いました。

ソラは「重い病気」か「ただの風邪」かわからなくなってしまいました。

C：こまったなあ…どうしよう…

A：困り果てたソラが家に帰ると、パソコンに宣伝のメッセージが届いていました。

そこには「新しい病院がオープンします！人間のドクターが診察します！」と書かれていました。

C：人間のドクターが診てくれるのか…大丈夫かな？でも、試しに行ってみようかな？

A：もしあなたなら、誰を信じますか？